

F2-40

旅行会社が企画するインフラツーリズムの特徴に関する研究
－北海道で取り組まれている「公共施設見学ツアー」を対象として－
Research on the characteristics of infrastructure tourism planned by travel agencies
For "public facility tours" undertaken in Hokkaido

○品田康太¹, 阿部貴弘²*Kota Shinada¹, Takahiro Abe²

Abstract: Infrastructure tourism is attracting attention in Japan. Especially in Hokkaido, the Hokkaido Development Bureau and travel agencies collaborate to conduct "public facility tours" planned by travel agencies. In this research, we will clarify the method of attracting infrastructure tourism planned by travel agencies for "public facility tours".

1. はじめに

近年、全国でインフラツーリズムが展開され注目を集めている。またインフラツーリズムは、参加者のインフラへの理解を深めるだけでなく、地域活性化や観光振興などの効果も期待されている。しかし現在、インフラツーリズムは、持続性の担保などの課題がある。それに対する一方策として、インフラを管理する行政と旅行会社や DMO などの民間企業との連携が挙げられている^[1]。

北海道では全国的にも一早く、平成 25 年から北海道開発局と旅行会社が連携したインフラツーリズムである「公共施設見学ツアー」(以下、見学ツアー)が取り組まれている。見学ツアーは、北海道開発局が管理している公共施設の見学を観光資源として組み込んだ旅行ツアーである。見学では、北海道開発局の職員が普段は入れないエリアを案内したり、施設の役割について詳しく解説をしている(以下、このような北海道開発局の職員の案内のあるインフラを本研究では、案内のあるインフラとする)。また見学ツアー中に、北海道開発局の職員が参加者と関わるのは公共施設見学時のみであり、見学ツアーの参加者の募集や企画、催行を旅行会社が行うことから、旅行会社の裁量の大きい旅行ツアーであるといえる。

見学ツアーに関する研究では、参加者視点の研究^[2]、北海道開発局の取り組み内容に関する研究^[3]が行われている。しかし、見学ツアーを企画する旅行会社の視点に着目した研究は行われていない。

そこで本研究は、北海道で取り組まれている見学ツアーを対象として、行政と民間企業が連携したインフラツーリズムの展開に資するために、インフラの活用方法を明らかにする。

2. 研究対象

本研究では、平成 25 年から現在までに企画された見学ツアーの内、日帰りの見学ツアー 55 件、宿泊を伴う見学ツアー 12 件の合計 67 件の見学ツアーを対象とする。

分析資料として、67 件の見学ツアーを企画した 15 社の旅行会社からご提供いただいた、参加者を募集する際に利用した、旅行行程等がわかる資料を用いる。

3. 研究方法

Figure 1 に示すプロセスで研究を進める。

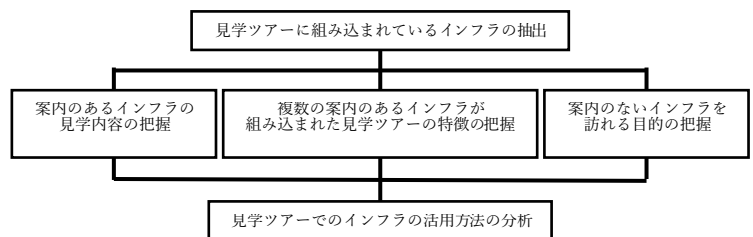


Figure 1. Research process

4. 結果及び考察

4-1. インフラの抽出と分類

企画された見学ツアー 67 件の分析資料を用いて、見学ツアーに組み込まれているインフラを 162 件抽出した。また抽出された 162 件中、案内があるインフラは、99/162 件 (61.1%) 確認され、案内のないインフラを 63/162 件 (38.9%) 確認することができた。さらに、案内のあるインフラ 99 件をインフラの種類と分析資料にある、北海道開発局の職員が案内を行う見学の内容に着目して分類し (Table 1)、案内のないインフラ 63 件を、インフラの種類と訪れる目的に着目して分類した (Table 2)。

まず Table 1 では、北海道開発局の職員が案内を行う見学の内容を 5 種類に分類した結果に着目すると、普段入ることができない場所に入ることや、観光放流を

1 : 日大理工・院 (前)・まち 2 : 日大理工・教員・まち

見ること、船の上からインフラを見学することができるといった「非日常体験」が63/99件(63.6%)、雪や紅葉などの季節ごとの環境の変化を楽しむことができるといった「季節限定」が4/99件(4.0%)、工事中などのインフラを見学するといった「時期限定」が4/99件(4.0%)、インフラから北海道の自然風景などを見ることができるといった「風景」が2/99件(2.0%)、特に見学に関する記載のない「記載なし」が26/99件(26.3%)に分類することができた。このように、北海道で取り組まれている見学ツアーでは、インフラが与える非日常体験のほかに、北海道の自然風景や季節限定でしか見学することができないインフラやインフラから見る風景といった、インフラの情報を分析資料から確認することができた。

次に Table 2 では、インフラの種類別の分類した結果に着目すると、「道の駅」が49/63件(77.8%)と最も多く、「道の駅」に訪れる目的として、「休憩」27/49件(55.1%)や「買い物」6/27件(22.2%)といった目的が多いことがわかった。ほかにも道の駅では、橋梁に関する資料館が併設されているなどの「見学」が2/27件(7.4%)確認され、休憩場所としての利用だけでなく、他のインフラの学習を行うことができる場所としての利用が行われていたことがわかった。「橋梁」は、1/63件(1.6%)に留まったが、北海道開発局の職員が案内を行う見学があるダムを、下から見る視点場として活用されている。さらに橋梁のある場所がダム湖であることから、ダムと橋梁にストーリー性があり、また季節限定での視点場としての活用といった、インフラの情報を分析資料から確認することができた。

4-2. 複数の案内のあるインフラが組み込まれた見学ツアーの特徴の把握

67件の各見学ツアーに、組み込まれている案内のあるインフラの件数に着目をし、分類をした (Table 3)。案内のあるインフラが、1件組み込まれている見学ツアーが37/67件(55.2%)、2件以上組み込まれている公共施設見学ツアーが30/67件(44.8%)であった。

2件以上の案内のあるインフラが組み込まれている見学ツアーでは、2件のダムが組み込まれるといった、同じ種類のインフラを見学ツアーに組み込むことで、インフラを比較する見学ツアーが企画されている。そのほかにも、見学ツアーに組み込まれているインフラ同士に関連があるといった、見学ツアーも企画されている。

Table 1. Classification of guided infrastructure types and tour contents

インフラの種類別の分類	見学があるインフラの見学内容の分類					合計
	非日常体験	季節限定	時期限定	風景	記載なし	
ダム	52	2	4	0	9	67
橋梁	4	0	0	0	3	7
港湾	4	0	0	0	2	6
道路	0	2	0	0	1	3
砂防関係	2	0	0	0	1	3
堰堤	0	0	0	1	0	1
遊水地	0	0	0	0	1	1
河川	0	0	0	0	1	1
運河	0	0	0	0	1	1
その他	1	0	0	1	7	9
合計	63	4	4	2	26	99

Table 2. Classification of unguided infrastructure by type and purpose of visit

インフラの種類別の分類	見学がないインフラに訪れる目的							合計	
	休憩	買い物	休憩・買い物	食事・買い物	風景	見学	移動		
道の駅等	27	6	2	3	0	2	0	9	49
公園	0	0	0	0	3	0	0	6	9
河川	0	0	0	0	0	0	0	2	2
鉄道	0	0	0	0	0	0	1	0	1
橋梁	0	0	0	0	1	0	0	0	1
発電所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	27	6	2	3	4	2	1	18	63

Table 3. Classification of tours by the number of guided infrastructures

案内のあるインフラの件数による見学ツアーの分類		
1件	2件以上	合計
37	30	67

5. まとめ

以上のように、北海道開発局と旅行会社が連携して取り組んでいる「公共施設見学ツアー」を対象に、インフラの観光資源としての活用方法を明らかにした。今後は、旅行会社へのヒアリング調査などを行い、旅行会社が企画するインフラツーリズムの特徴を明らかにする。

6. 参考文献

- [1]国土交通省：インフラツーリズム拡大の手引き－試行版－，国土交通省，平成31年
- [2]山根 英資・長南 哉・佐藤 仁昭：インフラツーリズムの実施状況と今後の展開について－インフラと地域のより一層の連携による地域活性化に向けて－，国土交通省北海道開発局第63回（令和元年度）北海道開発技術研究発表会
- [3]鎌田 耕司・滝波 武仁：「公共施設見学ツアー」の取り組みについて－旅行会社との連携による新たな旅行形態の創出を目指して－，国土交通省北海道開発局第56回（平成26年度）北海道開発技術研究発表会